

2018年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果要約

実務者や芸術家との連携強化を通じた裾野の広い研究発信: 東京国立博物館で来場者数30万人を超えた「縄文展」に連動し、第2班のチームリーダーである矢野教授出演の映画「縄文にハマる人々」の上映会を開催した。上映後のトークショーでは、映画監督、美術家、音楽家など学術外の専門家との談話を通して、縄文考古学をより身近に感じてもらうことに成功した。また、第2班及び第4班においても、商業誌などへの専門知識の提供やテレビ出演も行き、学術にとどまることのない広範囲にわたる研究成果の発信を行った。

若手研究員による研究成果の国際発信: 第1班では、福本研究員がフィンランド、トゥルク大学の年縞分析の研究者との国際共同論文に着手した。第2班では、富田助教が国際学会で海外研究者との国際共同発表を行った。第3班では、中村助教が国際学会で研究発表を行い、セッションオーガナイザーも務めた。更に、第4班では、神松助教が参加した英語共著論文「古文書に残存する髪の毛の同位体分析」がNatureグループのScientific reports誌に掲載され、国内外で多くの注目を浴び、若手研究者の国際成果発信が大きく前進した。

■各グループの研究成果

第1班(環境考古学/安田喜憲グループ): 環境変化・災害の人口変動に与えた影響を分析するために必要な環境変化の基礎資料を得るための完新世～近過去の環境復元

湖の堆積物や年縞堆積物の研究から、千年スケールの長期気候変動と環境変化の関連性および、日本と世界各地の気候変動に対する応答の違いとメカニズムを明らかにした。

第2班(文化人類学/小川さやかグループ): 人口変化の社会的要因に関する事例研究のための国際研究体制の構築

インフォーマル交易、牧畜の産業化、消費社会における高級食材など多岐に渡るテーマで、人口変化と社会的要因の関連性について、文化人類学を基礎に研究を継続した。各研究成果は、国内では商業誌や一般の方々を対象とした講演会など学術外でも幅広く取り上げられ、研究活動の発信促進を行った。海外では、国際的な研究成果の発信を通じて、多数の著名な研究者との人的ネットワークを広げた。

第3班(縄文考古学/矢野健一グループ): 日本初の汎用データベースフォーマットβ版の整備

考古学では日本初となる汎用データベースフォーマットβ版の整備を行った。このデータベースには、日本列島の長期的人口変動復元に用いる多種多様なデータを格納することが可能であり、その汎用性の高さは国際的な考古学データベース構築の基礎にもなりうる。

第4班(災害地理学/高橋学グループ): 環境変化・災害が人口変化に及ぼす影響と土地利用との関わり

西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震などの事例について、自然の微地形と人間の土地利用および景観の歴史の変遷の分析によって、「災害」による被害を一層拡大させる人間の「不適切な土地利用」についてより一層の明示化を進めた。

■今後の展望

◇**研究成果の学外発信:** これまでの土曜講座や研究会での研究成果発信に加え、2018年度は、更なる聴講者の拡大を目的に映画「縄文にハマる人々」の上映会を行い、幅広い年齢層の集客に成功し、一定の成果を挙げることができた。これを踏まえ、2019年度は、昨年度の注目度を基礎に、研究の軸足の強化を目的とし、7月または8月に100名規模収容の会場でシンポジウムを開催する。このシンポジウムを通して、縄文考古学以外の当センターにおける専門領域の認知拡大を試みる。

◇**センターの活性化:** 昨年度に引き続き、研究者の多様化に取り組んだ。中でも特筆すべきは、異文化共生の観点から、外国籍研究者の委員に就任である。この取組は、センター研究所化において、当センターの重要な特色になると考えている。今後もこのような研究分野はもとより多種多様な研究者との連携がセンターの活性化につながると考えている

◇**外部資金の獲得:** 2018年度に引き続き、科研費SとAを申請する。その際に、前回の反省点を踏まえ、上記で述べたシンポジウムで学外の科研費メンバーとの交渉を行ない、より強固な研究ネットワークを形成し、大型外部資金の採択を確実なものにすることを旨とする。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	安田喜憲	衣笠総合研究機構	客員研究教員	
運営委員	高橋学	文学部	教授	
	矢野健一	文学部	教授	
	小川さやか	先端総合学術研究科	准教授	
	河角直美	文学部	准教授	
	Saucedo Segami Daniel Dante	衣笠言語教育センター	外国語嘱託講師	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中川毅	総合科学技術研究機構	教授	
	島田伸敬	情報理工学部	教授	
	川村貞夫	理工学部	教授	
	中村大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	神松幸弘	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	富田敬大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	福本侑	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		近藤宏	衣笠総合研究機構	専門研究員
		佐久間香子	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	梁説	先端総合学術研究科	博士後期課程院生
		Corey Noxon	文学研究科	博士後期課程院生
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	岩田京子	先端総合学術研究科	研究指導助手	
客員協力研究員	尾関清子	東海学園女子短期大学	名誉教授	
	清水昭	福島県立医科大学	特任教授	
	山田和芳	ふじのくに地球環境史ミュージアム	教授	
	小野林太郎	東海大学海洋学部海洋文明学科	准教授	
	嘉幡茂	ラス・アメリカス・プエブラ大学	准教授	
	藤木利之	岡山理科大学理学部	准教授	
	那須浩郎	岡山理科大学生物地球学部	准教授	
	市木尚利	ペルー・リマ日本人学校	常勤講師	
	東村純子	福井大学国際地域学部	講師	
	森下直紀	和光大学経営経済学部	講師	

	杜海寧	関西大学政策創造学部	非常勤講師
	北川淳子	福井県里山里海湖研究所	主任研究員
	真邊彩	鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	文化財専門員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	外山秀一	皇學館大學	教授
	丸山敦	龍谷大学	准教授
	小野映介	新潟大学	准教授
	中村豊	徳島大学	准教授
	高山浩司	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
	菅原大助	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
	桐村喬	皇學館大学	助教
	上峯篤史	京都大学白眉センター	特定助教
	森勇一	金城学院大学	講師
	石田智恵	早稲田大学法学学術院	専任講師
	松森智彦	同志社大学人文科学研究所	嘱託研究員
	栗畑光博	都城市教育委員会	主幹
	宮地聡一郎	福岡県教育委員会	主査
	遠部慎	久万高原町教育委員会	主事
	幡中光輔	出雲市文化財課	主事
木村啓章	大阪府教育庁	技師	
研究所・センター構成員 計 47 名 (うち学内の若手研究者 計 5 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	渡辺公三	身体・歴史・人類学Ⅲ 批判的人类学のために	単著	2018年8月	言叢社		520 pp
2	上峯篤史	縄文石器の系統と原材	単著	2018年8月	同志社大学考古学シリーズ刊行会、「実証の考古学：松藤和人先生退職記念論文集」、同志社大学考古学シリーズⅪ	久保弘幸他 60 名	pp.55-67
3	那須浩郎	稲作農耕伝来後の水田雑草フロラの変遷	単著	2018年9月	講談社サイエンティフィク、「雑草学入門」	宮浦理恵他 3 名	pp.50-65
4	外山秀一	ジオとグラフィーの旅4 衣食住の旅	単著	2018年10月	古今書院		126pp
5	中村豊	稲作主体ではない複合的農耕の探究	単著	2018年10月	日本考古学協会 2018 年度静岡大会実行委員会、「境界の考古学 日本考古学協会 2018 年度静岡大会研究発表資料集」	佐藤宏之他 27 名	pp.251-262
6	森勇一	東海のジオサイトを楽しむ	単著	2019年2月	風媒社		152pp

7	河角直美	長谷川家所蔵「京都市明細図」を読む	単著	2019年2月	風媒社,『地図で楽しむ京都の近代』	上杉和央, 加藤政洋 編著	pp.22-29
8	河角直美	京都府立京都学・歴彩館所蔵「京都市明細図」を読む	単著	2019年2月	同上	同上	pp.30-235
9	河角直美	「京都市明細図」占領期の京都	単著	2019年2月	同上	同上	pp.36-45
10	河角直美	「京都市明細図」と災害の歴史	単著	2019年2月	同上	同上	pp.100-105
11	高橋学	遺跡立地分析のための地形分類図の限界	単著	2019年3月	ニューサイエンス社,「考古学ジャーナル 723」		p1
12	小川さやか	ずる賢いのは悪い事?—文化人類学と芸術から学ぶ不確実な世界でのサヴァイバル	共著	2019年3月	金沢 21 世紀美術館,「中学生まるびいアートスクール記録集」	椿昇, 白くま先生	pp.142-167

2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	北川淳子	Adaptations of the Early Jomon people in their settlement relocation to climate change around Lake Mikata, Central Japan	共著	2018年4月	Archaeological Research in Asia, Vol.16	Kojima H 他 3 名	pp.66-77	有
2	森勇一	馳上遺跡の漆付着土器から発見された双翅目昆虫とその意義について	単著	2018年4月	(公財) 山形県埋蔵文化財センター,「山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 230 集」		pp.349-356	無
3	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第4回「ついで」が構築するセーフティネット	単著	2018年4月	Web 春秋, 春秋社			無
4	小川さやか	後ろめたくないお金は可能か	単著	2018年5月	タバックス,「仕事文脈」, No.12		pp.10-15	無
5	矢野健一,	滋賀県米原市杉沢遺跡における考古学と美術の共同プロジェクト	共著	2018年5月	日本考古学協会,「日本考古学協会第 84 回総会研究発表要旨」	横谷奈歩他 4 名	pp.70-71	無
6	中村大	北日本の縄文晩期における墓制の地域性とその解釈	単著	2018年5月	日本考古学協会,「日本考古学協会第 84 回総会研究発表要旨」		pp.6-7	無
7	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第5回 ビジネスに必須なのは「信頼の欠如」	単著	2018年5月	Web 春秋, 春秋社			無

8	小川さやか	序にかえて 現代的な消費の人類学の構築に向けて (特集 現代消費文化を捉える人類学的視点の探求)	単著	2018年6月	日本文化人類学会, 「文化人類学」, 83巻1号		pp.47-57	有
9	川村貞夫	負圧効果板を用いた水中ロボットによる青蓮寺ダム堤体検査	共著	2018年6月	日本機械学会, 「ロボティクス・メカトロニクス講演会 2018 講演論文集」	油本陽介他 2名	pp.2-5	無
10	島田伸敬	Inference of Grasping Pattern from Object Image Based on Interaction Descriptor	共著	2018年6月	The 27th IEEE International Symposium on Industrial Electronics (IEEE-ISIE2018)	Tadashi Matsuo 他 2名	pp.565-570	有
11	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第6回 客はブローカーのもの、それ以外はみんなのもの	単著	2018年6月	Web 春秋, 春秋社			無
12	近藤宏	〈土地〉を所有する現在—パナマ東部先住民エンベラから見る境界画定	単著	2018年7月	国立民族学博物館, 「国立民族学博物館研究報告」, 43巻1号,		pp.1-77	有
13	神松幸弘	Using food network unfolding to evaluate food-web complexity in terms of biodiversity: theory and applications	共著	2018年7月	Ecology letters, Vol.21, Issue7	Yoshikazu Kato 他 13名	pp.1065-1074	有
14	小川さやか	2018年上半期の収穫	単著	2018年7月	株式会社読書人, 「週刊読書人」, 7月27日号		1,4-5面	無
15	矢野健一&川村貞夫&島田伸敬	葛籠尾崎湖底遺跡調査の概要	共著	2018年7月	日本文化財科学会, 「日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集」	近藤芽衣, 他 1名	pp.420-421	無
16	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第7回 シェアリング経済を支える「TRUST」	単著	2018年7月	Web 春秋, 春秋社			無
17	那須浩郎	縄文時代の植物のドメスティケーション	単著	2018年8月	日本第四紀学会, 「第四紀研究」, 57巻4号、	工藤雄一郎	pp.109-126	有
18	丸山敦 & 神松幸弘,	Hairs in old books isotopically reconstruct the eating habits of early modern Japan	共著	2018年8月	Scientific Reports, 8, Article Number12152	Junichiro Takemura 他 3名	ページ数なし	有
19	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第8回 商売は後からついてく	単著	2018年8月	Web 春秋, 春秋社			無

		る、「その人らしさ」でつながるネットワーク						
20	森勇一	日本列島から姿を消したムシ—井戸の中から	単著	2018年9月	岡山県古代吉備文化財センター,「所報吉備」,第65号		p6	無
21	中川毅	Constraints on the frequency and dispersal of explosive eruptions at Sambe and Daisen volcanoes (South-West Japan Arc) from the distal Lake Suigetsu record (SG06 core)	共著	2018年10月	Earth Science Reviews, Vol.185	Paul G. Albert, 他11名	pp.1004-1028	有
22	小川さやか	ついでに親切で築き上げるセーフティネット	単著	2018年10月	三輪書店,「作業療法ジャーナル」,Vol.52, No.11		1107p.	無
23	小川さやか	自制的秩序のつくりかた—香港のタンザニア人によるSNSを通じた交易(特集ア ナキズムとキリスト教)	単著	2018年10月	新教出版社,「福音と世界」,10月号		pp.24-29	無
24	中川毅	Constraints on the frequency and dispersal of explosive eruptions at Sambe and Daisen volcanoes (South-West Japan Arc) from the distal Lake Suigetsu record (SG06 core)	共著	2018年10月	Earth-Science Reviews, Vol.185	Albert, P.G,他10名	pp.1004-1028	有
25	中村大	縄文墓制の変化と地域性に見える化	単著	2018年10月	ニューサイエンス社,「月刊考古学ジャーナル」,No.719		pp.30-31	無
26	山田和芳	Carbon cycle dynamics linked with Karoo-Ferrar volcanism and astronomical cycles during Pliensbachian-Toarcian (Early Jurassic)	共著	2018年11月	Global and Planetary Change, Vol.170	Ikeda, M 他4名	pp.163-171	有
27	那須浩郎	縄文時代と弥生時代の栽培植物	単著	2018年11月	雄山閣,「季刊考古学」,第145号		pp.48-52	無
28	小川さやか	タンザニアの気づいてもらえる仕組み	単著	2018年11月	公益産業研究調査会,「公研」,11月号		pp.14-15	無
29	小川さやか	他動力—香港のタンザニア人たちの多動力	単著	2018年11月	青土社,「現代思想」,11月号		pp.148-158	無
30	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第10	単著	2018年11月	春秋社,「Web春秋」,11月号			無

		回 昼間のビジネス、夜のビジネス						
31	中川 毅	An extended and revised Lake Suigetsu varve chronology from ~50 to ~10 ka BP based on detailed sediment micro-facies analyses	共著	2018年11月	Quaternary Science Reviews, Vol.200	Schlolaut, G 他 6名	pp.351-366	有
32	河角直美	デジタルアーカイブ写真を活用した景観理解支援システムの研究—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—	共著	2018年11月	日本建築学会 建築教育委員会, 「日本建築学会第18回建築教育シンポジウム建築教育研究論文報告集」, 18号	高橋彰他5名	pp.35-41	無
33	近藤宏	地図というフレーム—パナマ 東部先住民エンペラにおける「新奇なもの」の経験	単著	2018年12月	日本ラテンアメリカ学会, 「ラテンアメリカ研究年報」, 38号		pp.1-31	有
34	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 第11回 人生は商機とともに	単著	2018年12月	春秋社, 「Web 春秋」, 12月号			無
35	富田敬大	商品と非商品のあいだ—モンゴル都市近郊における乳製品の生産・流通を事例に	単著	2018年12月	生態人類学会, 「生態人類学会ニューズレター」, 24号		pp.96-100	無
36	市木尚利	高校教育を対象とした古代アメリカ学会の普及活動	共著	2018年12月	古代アメリカ学会, 「古代アメリカ」, 21号	渡部森哉, 他5名	pp.103-118	有
37	森勇一	小野知洋愛知県東谷山湿地のボーリング試料から発見された昆虫化石	共著	2019年1月	東谷山湿地調査研究会, 「名古屋市東谷山湿地ボーリング調査報告書」,	浅野雄太	pp.40-47	無
38	森勇一	名古屋市東谷山周辺の地形と地質	共著	2019年1月	同上	田口一男	pp.72-81	無
39	森勇一	東谷山湿地のボーリング試料から産出した珪藻化石について	共著	2019年1月	同上	宇佐美徹, 他2名	pp.27-39	無
40	中村大	『防長風土注進案』に記載された淡水性魚介類の分布にみられる共通性と地域性	共著	2019年2月	山口大学教育学部, 「山口大学教育学部研究論叢」, 第68巻	五島淑子	pp.227-236	無
41	松森智彦, 中村大	『防長風土注進案』記載の虫類目録	共著	2019年2月	同上	五島淑子	pp.237-244	無
42	高山浩二	Correction to: Factors driving adaptive radiation in plants of oceanic islands: a case study from the Juan Fernández Archipelago,	共著	2019年1月	Journal of Plant Research, Vol.132, Issue 2	Crawford, D.J 他4名	pp.295-295	有
43	小川さやか	チョンキンマンションのボスは知っている—香港のアングラ経済と日本の未来 最終回	単著	2019年1月	春秋社, 「Web 春秋」, 1月号			無

		チョンキンマンションのボスは知っている						
44	高山浩二	Distinct phylogeographic structure of the halophyte Suaeda malacosperma (Chenopodiaceae/Amaranthaceae), endemic to Korea–Japan region, influenced by historical range shift dynamics	共著	2019年2月	Plant Systematics and Evolution, Vol.305, Issue 3	Park, J.S 他2名	pp.193-203	有
45	栗畑光博	火山災害考古学序説	単著	2019年2月	雄山閣, 「季刊考古学」,146号		pp.14-17	無
46	栗畑光博	鬼界アカホヤ噴火災害と狩猟採集民の対応	単著	2019年2月	雄山閣, 「季刊考古学」,146号		pp.34-37	無
47	栗畑光博	島南部九州における縄文時代の局地的噴火災害—桜島火山と霧島火山群のテフラを中心として—	単著	2019年2月	雄山閣, 「季刊考古学」,146号		pp.38-41	無
48	近藤宏	ブタをめぐる視点の形成—パナマ東部先住民エンベラの肉食と植民地史	単著	2019年3月	亜紀書房, 「たぐい」,Vol.1		pp.68-81	無
49	小川さやか	緩慢な移動を可能にする海賊システム—中国・香港におけるアフリカ系交易人を事例に	単著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 3号		pp.122-133	有
50	富田敬大	モンゴル草原における牧畜民と自然災害—社会主義期の寒雪害の実態およびその影響	単著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 第3号		pp.23-42	有
51	福本侑	秋田県・田沢湖における湖沼堆積物中の珪藻遺骸群集と環境変遷	共著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 第3号	池田太一他6名	pp.63-76	有
52	中村大	東北部の縄文前期人口の変動と火山噴火	単著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 3号		pp.43-62	有
53	矢野健一, 川村貞夫, 島田伸敬	水中ロボットを利用した葛籠尾崎湖底遺跡調査の成果とその意義	共著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 3号	熊谷道夫	pp.77-90	有
54	高橋学	環境史・土地開発史・災害史からみた災害発生メカニズム—2018年大阪府北部地震・7月豪雨・北海道胆振東部地震の場合—	単著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 3号		pp.1-22	有
55	河角直美	近代京都における土地利用と地形環境	単著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 3号		pp.91-102	有
56	神松幸弘	日本産小型サンショウウオから見た日本列島における環境変動に対する生物の影響応答	単著	2019年3月	雄山閣, 「環太平洋文明研究」, 3号		pp.102-121	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	富田敬大	変化を生きるモンゴル遊牧民—人口・家畜統計を用いた牧畜研究の可能性	2018年4月	立命館大学環太平洋文明研究センター第20回定例研究会, 立命館大学・京都市	
2	福本侑&山田和芳	秋田県・田沢湖における湖沼堆積物中の珪藻遺骸群集	2018年5月	日本地球惑星科学連合2018年大会, 幕張メッセ・千葉市	池田太一他5名
3	山田和芳	静岡県浜名湖における過去2000年間の古環境変遷史	2018年5月	同上	瀬戸浩二他3名
4	山田和芳	三保の松原の景観形成に関する人的影響	2018年5月	同上,	菅原大助
5	山田和芳	三浦半島江奈湾干潟の堆積物中のCNS元素分析	2018年5月	同上	山本有夏他1名
6	中川毅	完新世中・後期における東アジアの台風災害史と太平洋の気圧・温度条件との関係	2018年5月	同上	鈴木克明他6名
7	福本侑	湖沼の年縞堆積物からわかる過去の環境変動	2018年5月	立命館大学環太平洋文明研究センター第21回定例研究会, 立命館大学・京都市	
8	矢野健一	滋賀県米原市杉沢遺跡における考古学と美術の共同プロジェクト	2018年5月	日本考古学協会第84回総会, 明治大学・東京都千代田区	横谷奈歩他4名
9	中村大	北日本の縄文晩期における墓制の地域性とその解釈	2018年5月	同上	
10	富田敬大	現代モンゴルにおける都市と遊牧民のかかわり—畜産物とりわけ乳製品の利用に着目して	2018年5月	近現代モンゴル社会の変容に関する研究会, 明治大学・東京都千代田区	
11	岩田京子	現代嵐山の景観をめぐる語り・制度・伝統	2018年5月	立命館京都学研究会, 立命館大学・京都市	
12	川村貞夫	Development of a small underwater robot for archaeological survey in fluctuating water-flow environments	2018年5月	Proc. of the Oceans'18 MTS/IEEE Kobe (Oceans'18), 神戸コンベンションセンター・神戸市中央区	Shohei Hotta 他2名
13	小川さやか	What "Automatic Translation Tool" can't do: Possibilities of Anthropological Practice by own Language	2018年6月	日韓フォーラム 自分の言語で人類学をすること, Academic meeting Korean Cultural Anthropology 2018 spring, Seoul National University, Seoul, Korea,	
14	小川さやか	自分の言語で人類学すること	2018年6月	日本文化人類学会・韓国文化人類学会共催連続セッション, 日本文化人類学会第52回研究大会, 弘前大学・弘前市	
15	矢野健一	Robotic Archaeological Survey of Tsuzuraozaki Underwater Site in the Lake Biwa, Japana	2018年6月	8th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Nanjing University, Nanjing, China,	Mei Kondo 他2名
16	中村大	Rituals, Burials and Population Dynamics of the Late and Final Jomon Period in Japan	2018年6月	同上	
17	Corey	Insights into the Roles of Sedentism and	2018年6月	同上	Paleodemography

	Noxon, Jōmon	Agriculture in the Neolithic Demographic Transition			
18	島田伸敬	Inference of Grasping Pattern from Object Image Based on Interaction Descriptor”	2018年6月	The 27th IEEE International Symposium on Industrial Electronics (IEEE-ISIE2018), Cairns Convention Centre, Cairns, Australia	Tadashi Matsuo 他2名
19	那須浩郎	縄文時代の植物のドメスティケーション	2018年6月	第541回考古学研究会岡山例会, 「縄文時代の環境変化と栽培・農耕」, 岡山大学・岡山市	
20	石田智恵	アルゼンチンにおける「失踪者の文化」の一側面—二つの「回復」から見る喪の可能性	2018年6月	日本文化人類学会第52回研究大会, 弘前大学・弘前市	
21	富田敬大	社会主義モンゴルにおける畜産業化の展開と資源利用への影響	2018年6月	同上	
22	中村大	縄文時代の人口を推定する新たな方法	2018年6月	2018年度関西縄文文化研究会6月例会, 立命館大学・京都市	
23	中村大& 矢野健一	縄文遺跡データベース作成報告	2018年6月	同上	
24	川村貞夫	負圧効果板を用いた水中ロボットによる青蓮寺ダム堤体検査	2018年6月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2018 in 北九州 (ROBOMECH2018), 北九州国際コンベンションゾーン・北九州市	油本陽介他2名
25	川村貞夫	Negative Pressure Effect Plates for Maintaining Position and Orientation of Underwater Robots	2018年6月	Proc. of the Twenty-eighth (2018) International Ocean and Polar Engineering Conference (ISOPE2018), ロイトン札幌・札幌市	Takahiro Takebayashi 他3名
26	市木尚利	古代アンデスの「ワリ帝国」と地域社会—ワウラ様式の検討から	2018年6月	立命館大学考古学・文化遺産専攻・文学研究科考古学専修, 第20回立命館大学考古学談話会, 立命館大学・京都市	
27	矢野健一& 川村貞夫& 島田伸敬	葛籠尾崎湖底遺跡調査の概要	2018年7月	日本文化財科学会第35回大会, 奈良大学・奈良市	近藤芽衣他1名
28	市木尚利	ペルー考古学の成果と課題—様式論の展開と編年研究を中心にして—	2018年7月	立命館大学環太平洋文明研究センター第22回定例研究会, 立命館大学・京都市	
29	神松幸弘	料理・調味料の復元と活用に関する研究	2018年7月	第4回日本語の歴史的典籍国際研究集会, 国文学研究資料館・立川市	
30	北川淳子, 中川毅	水月湖年縞堆積物に記録された更新世最末期の地磁気エクスカージョン	2018年8月	日本第四紀学会2018年大会, 首都大学東京・八王子市	田辺祥汰他4名
31	中川毅	世界の追撃をいかにして振り切るか—水月湖プロジェクトの憂鬱と勝算	2018年8月	同上	山田圭太郎他2名
32	福本侑	モンゴルにおける湖沼湿原堆積物を用いた完新世の乾湿変動復元の試み	2018年8月	同上	鹿島薫他1名

33	富田敬大	How Nomadic Livelihood Has Changed in Mongolia: Socialist Industrialization and its influence on Pastoral Land Use	2018年8月	International Altay Communities Symposium VII, Mongolian University of Science and Technology, Ulaanbaatar, Mongolia	
34	島田伸敬	Auto-encoder for generating a transform invariant descriptor and transform parameters	2018年8月	第21回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2018) PSI-22, 札幌コンベンションセンター・札幌市白石区	Tadashi Matsuo
35	川村貞夫	水没型モータによる小型水中ロボットアーム開発	2018年9月	1D2-06, 第36回日本ロボット学会学術講演会, 中京大学・豊田市	住友尚輝他1名
36	福本侑&山田和芳	The Holocene paleoenvironmental changes in Lake Tazawa, northeastern Japan	2018年10月	The 15 th East Eurasia international workshop on present Earth surface processes and long-term environmental changes in East Eurasia, BEXCO 会議場・釜山広域市	Ikeda T 他5名
37	福本侑&山田和芳	Reconstruction of the Holocene environmental changes in the sediment of Lake Ikeda, Shimojima at Amakusa Island, southwestern Japan	2018年10月	同上	Mita T 他3名
38	福本侑	Diatom assemblages at tsunami deposit at Kesenuma Bay, Miyagi, Japan-Traces of huge disaster at the enclosed bay by 2011 East Japan Tsunami(March 11, 2011)	2018年10月	同上	Shiomi.R 他2名
39	中川毅	Frequency and magnitude of flood events during the last 8000 years recorded in the sediment from Lake Suigetsu, central Japan, and the potential linkage to the SST distribution in the equatorial Pacific	2018年10月	AGU Fall Meeting 2018, ウォルター・E・ワシントン会議場・ワシントンDC, アメリカ合衆国	Suzuki. Y 他6名
40	中川毅	Onsets of the Holocene and the Lateglacial Interstadial Have Different Mechanisms- Revealed by Robust Synchronisation of Suigetsu, NGRIP, Hulu and Other High-Resolution Archives	2018年10月	同上	Staff,R 他13名
41	福本侑	気仙沼湾における2011年東日本大震災津波に伴う珪藻群集の変動	2018年10月	日本珪藻学会 第38回研究集会, 近畿大学医学部・狭山市	塩見良三他2名
42	北川淳子&山田和芳	花粉から見る三方五湖周辺の過去3000年	2018年10月	第10回汽水域研究会, 三方青年の家・福井県三方上中郡	瀬戸浩二他3名
43	山田和芳	年縞にみる環境史の課題と展望	2018年10月	同上	
44	中川毅	日本の年縞堆積物の最新の解析	2018年10月	同上	
45	中村大	A Visualization of Invisible Communities: Rituals, Burials and Population Dynamics of the Late and Final Jomon Period in Japan	2018年10月	Power of the Invisibles' an International Conference and Exhibition on Art and Archaeology, オフグリッド・福島県福島市	

46	島田伸敬	Rain Streaks Detection and Removal Using Temporal Correlation and EM-Based Low-Rank Matrix Completion for Video Sequences	2018年10月	The 14th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2018), 九州大学西新プラザ・福岡市早良区	YUTONG Z 他1名
47	島田伸敬	Development system of Facilitator's skills to manage group discussions by gamification	2018年10月	同上	
48	島田伸敬	Development of a hand robot that can imitate the procedure of object manipulation accompanied with object state transition	2018年10月	同上	
49	中村豊	稲作主体ではない複合的農耕の探究	2018年10月	日本考古学協会2018年度静岡大会 境界の考古学, 静岡大学・静岡市駿河区	
50	那須浩郎	縄文時代のマメとヒエのドメスティケーション	2018年11月	第33回日本植生史学会大会, 滋賀県立琵琶湖博物館・草津市	
51	那須浩郎	キビのヨーロッパへの拡散の時期と経路—ウクライナでのレプリカ法データからの考察—	2018年11月	同上	遠藤英子他3名
52	アルベルト ウス＝ト マス・モリ	華人キリスト者による『短期宣教』への一考察	2018年11月	日本文化人類学会2018年度「次世代育成セミナー」, 東京外国語大学・府中市	
53	上峯篤史	東アジアにおける石英製石器群の基礎的研究(3)	2018年11月	パレオアジア文化史学第6回研究大会, 東京大学小柴ホール・東京都文京区	渡邊貴亮他2名
54	上峯篤史	島根県松江市鳥ヶ崎遺跡の後期旧石器	2018年11月	同上	
55	河角直美	デジタルアーカイブ写真を活用した景観理解支援システムの研究—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—	2018年11月	日本建築学会第18回建築教育シンポジウム, 建築会館・東京都港区	高橋彰他5名
56	神松幸弘	西日本縄文時代における環境変化と適応—地理・生態学からのアプローチ—	2018年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター第23回定例研究会, 立命館大学・京都市	
57	山田和芳	年縞にみる環境史に課題と展望	2018年12月	第28回環境地質学シンポジウム, 日本大学・東京都	
58	近藤宏	ある肉食形態の系譜と敷衍: パナマ東部先住民エンベラの豚肉について	2018年12月	シンポジウム『食と肉の種的転回』, 熊本大学・熊本市	
59	小川さやか	趣旨説明	2018年12月	日本文化人類学会一般公開シンポジウム『現在・未来の経済社会に向けた人類学的知の再構築—ブロックチェーンからシェアリング経済まで』, 立命館大学・京都市	
60	富田敬大	Comment: Changing Strategies of Pastoral Management in the Post-Socialist Mongolia	2018年12月	Monthly Seminar Northeast Asia Project: Climate Change and Nomadic Peoples in Afro-Eurasia, 国立民族学博物館・吹田市	
61	上峯篤史	Middle-Upper Paleolithic Transition in Northern China	2018年12月	PaleoAsia 2018 The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia, 総合地球環境学研究	

				所・京都市	
62	北川淳子& 山田和芳	福井県若狭地方の古代の製塩と気候	2019年1月	島根大学研究・学術情報機構エスチ ュアリー研究センター第26回新春 恒例汽水域研究発表会, 汽水域研究 会(代会合同研究発表会, 島根大学・ 松江市	瀬戸浩二他4名
63	森下直紀	Fundamental Social Problems of Japan from Minamata Disease Incident	2019年1月	Workshop organized by Dr. Massimo Canali, University of Bologna, Bologna, Italy	
64	近藤宏	樹が倒れるとき：パナマ東部先住民エンベラ による森林伐採と未来のイメージ	2019年1月	『早稲田文化人類学会 第20回総 会・シンポジウム』, 早稲田大学・ 東京都新宿区	
65	島田伸敬	ニューラルネットワークを用いた物体画像か ら把持方法候補の想起	2019年1月	パターン認識・メディア理解研究会 2019年1月研究会 (PRMU), 京都 テルサ・京都市	
66	中村大	6000年前の十和田火山噴火が縄文社会に与 えた影響―遺跡の分布と数量の変化からみた 評価の試み―	2019年1月	立命館大学環太平洋文明研究センタ ー第24回定例研究会, 立命館大 学・京都市	
67	島田伸敬	Auto-encoder factorizing into transform invariants and transform parameters	2019年2月	The 25th International Workshop on Frontiers of Computer Vision (IW-FCV2019), Lakai Sandpine Resort, Gangnueng, Korea	Matsuo T
68	矢野健一	大阪の縄文土器と縄文研究の現状, シンポジ ウム「河内地域の縄文時代遺跡と縄文土器	2019年2月	大阪歴史博物館・大阪市	
69	高山浩司	小笠原諸島固有寄生植物シマウツボの宿主同 定および遺伝構造解析	2019年3月	日本植物分類学会第18回大会, 首 都大学東京・東京都	西村明洋他3名
70	高山浩司	小笠原諸島固有種ムニンシラガゴケの遺伝的 多様性	2019年3月	同上	同上

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第20回定例研究会	衣笠キャンパス	2018年4月	9	
2	第21回定例研究会	衣笠キャンパス	2018年5月	9	
3	第22回定例研究会	衣笠キャンパス	2018年7月	10	
4	文化人類学班研究会	衣笠キャンパス	2018年10月	5	
5	『縄文にハマる人々』上映会と出演者トー クショー	衣笠キャンパス	2018年11月	90	立命館大学文学部 立命館グローバル・イノベーション研究機構
6	第23回定例研究会	衣笠キャンパス	2018年12月	7	
7	第24回定例研究会	衣笠キャンパス	2019年1月	5	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
(報道発表)				
1	高橋学	「スーパー南海地震と富士山大噴	週刊プレイボーイ	2018年4月9日

		火」の前兆だ		
2	高橋学	迫りくる大地震のXデー	週刊女性	2018年4月17日
3	高橋学	揺れが続く静岡・愛知・和歌山の次	日刊ゲンダイ	2018年4月19日
4	高橋学	スーパー南海トラフ地震の前兆	日刊ゲンダイ	2018年4月24日
5	北川淳子	年縞の世界力	福井新聞(連載)	2018年5月3,17日,7月5日,8月2,16日
6	高橋学	九州北部GW明け大地震に要警戒	日刊ゲンダイ電子版	2018年5月8日
7	高橋学	津波タワーはなぜ津波予測より低い か	日刊ゲンダイ	2018年5月24日
8	高橋学	死者47万人「スーパー南海地震」の 条件はそろった	iRONNA(インターネット 産経新聞)	2018年6月18日
9	高橋学	大阪北部地震は、やはり南海トラフ の前兆の可能性	現代ビジネス(インターネット 講談社)	2018年6月19日
10	高橋学	地震大国また脆弱さを露呈	日刊ゲンダイ	2018年6月20日
11	高橋学	活断層直撃17原発	日刊ゲンダイ	2018年6月20日
12	高橋学	東京五輪の最中に巨大地震が起きたら	週刊現代	2018年6月30日
13	高橋学	首都直下地震発生確率は大阪の 2300倍	女性セブン電子版	2018年7月5日
14	高橋学	活断層マップをチェックしておこう	週刊フライデー	2018年7月6日
15	高橋学	10年以内に「巨大地震」が来る場所	週刊現代	2018年7月7日
16	高橋学	大阪震度6弱「地震予知」はもう無理だ	サンデー毎日	2018年7月8日
17	高橋学	「大都市型地震」生かすべき教訓	週刊プレイボーイ	2018年7月9日
18	高橋学	スーパー南海地震に備えてください	週刊女性	2018年7月10日
19	高橋学	ハザードマップの落とし穴	日刊ゲンダイ	2018年7月12日
20	高橋学	盲点水害避難ターミナル駅は危ない	日刊ゲンダイ	2018年7月14日
21	高橋学	梅田・難波・甲子園水没マップ	夕刊フジ	2018年7月29日
22	高橋学	大雨災害は二度ニッポンを襲う	フライデー	2018年8月3日
23	高橋学	むしろ避難しないほうが安全	iRONNA(インターネット 産経新聞)	2018年8月3日
24	高橋学	ハザードマップの盲点	週刊女性	2018年8月7日
25	高橋学	想定外クライシス「土地への知識が 命を守る	産経新聞	2018年8月8日
26	矢野健一	杉沢遺跡の調査状況を説明 米原	中日新聞滋賀版,	2018年8月25日
27	矢野健一	杉沢遺跡で縄文土器の一部発見 米 原・伊吹山中生12人発掘体験	中日新聞滋賀版	2018年8月31日
28	高橋学	横浜にまもなく大地震	週刊現代	2018年9月1日
29	高橋学	日本の豪雨災害の裏にある宅地開発 の闇とその歴史	月刊サイゾー	2018年9月1日
30	高橋学	札幌市内に滞在していた...地震学	夕刊フジ電子版	2018年9月7日

		者・島村氏が緊急解説「地盤が圧縮されひずみ生じた」都市部で発生する2次災害に懸念 北海道地震		
31	高橋学	北海道大地震の次は千葉 専門家が指摘する「震度7」の予兆	日刊ゲンダイ電子版	2018年9月8日
32	高橋学	震源特定できない原因 首都圏も危ない“隠れ活断層”の脅威	日刊ゲンダイ電子版	2018年9月11日
33	高橋学	豊漁が一転、不漁に...サンマは北海道地震を知っていたのか	日刊ゲンダイ電子版	2018年9月14日
34	高橋学	北海道地震で判明...災害に弱い“盛土造成”のニュータウン	日刊ゲンダイ電子版	2018年9月17日
35	高橋学	東京大停電「緊急電源マップ」	週刊フライデー	2018年9月28日
36	高橋学	大地震その時何が起きて、どうすべきか	週刊現代	2018年10月6日
37	高橋学	「房総沖直下型大地震」は年内にやってくる	プレイボーイ	2018年10月8日
38	高橋学	環太平洋で頻発する大地震が意味するもの	日刊ゲンダイ	2018年10月10日
39	中川毅	皇太子さま 年縞に関心	福井新聞	2018年10月15日
40	中村大	縄文展の来場者は35万人超 土偶とエヴァンゲリオンに共通点?縄文ブームを支える熱い人たち	日経トレンディネット 2018年10月19日版 (オンライン版)	2018年10月19日
41	中川毅	年縞博物館 1万人突破	県民福井	2018年10月22日
42	高橋学	M9 南海トラフ地震のすべて	週刊現代	2018年10月27日
43	高橋学	和歌山内陸直下型地震 南海トラフ予兆	日刊ゲンダイ	2018年11月6日
44	中川毅	皇太子さま ご来町	広報わかさ, 12月号	2018年11月16日
45	高橋学	脱出せよ まもなく南海トラフ大地震ここでは死にたくない	週刊現代	2018年11月17日
46	中川毅	気候が「見える」花粉の化石	読売中高生新聞	2018年11月23日
47	中川毅	古気候学 中川氏が講演	朝日新聞	2018年11月29日
48	高橋学	2025年大阪万博が逃れられない「2年以内に南海トラフ」の重大リスク	週刊ポスト	2018年12月14日
49	高橋学	いよいよ「南海トラフ」が動き始めた	日刊ゲンダイ	2018年12月15日
50	中村大	北秋田市教委の縄文館講座 伊勢堂岱遺跡の時期に人口が急激に増減か	秋北新聞	2018年12月16日
51	中村大	環状列石つくった理由は 北秋田 伊勢堂岱縄文館講座 研究者の講演で学ぶ	北鹿新聞	2018年12月16日
52	高橋学	日本でも起こりうる津波&洪水を誘発する危ない7火山	日刊ゲンダイ	2018年12月26日
53	中川毅	気候変動は絶対に止まらない 現代の文明は、思っている以上に脆弱な	関西プレスクラブ会報, 第49号	2018年1月1日

		基盤の上に成り立っている		
54	高橋学	年内南海トラフ巨大地震の現実味	日刊ゲンダイ	2019年1月11日
55	高橋学	地震・災害「南海トラフ大地震」で太平洋側横断	週刊アサヒ芸能	2019年1月17日
56	高橋学	巨大地震「19年最も危険な地域」はここだ	女性セブン	2019年1月17日
57	高橋学	巨大災害「予測マップ」2019	週刊フライデー	2019年1月18日
58	高橋学	「スーパー南海地震」19年発生は秒読み	週刊フラッシュ	2019年1月22日
59	高橋学	今年は災害級冷夏	日刊ゲンダイ	2019年1月22日
60	中川毅	7万年分 データ地道に	サイエンスBOX・読売新聞	2019年2月1日
61	高橋学	アウトターライズ型地震とスーパー南海地震	サンデーLive(TV生出演), テレビ朝日	2019年2月10日
62	高橋学	2019年「巨大地震危険エリア」はここだ	週刊フライデー	2019年2月15日
63	高橋学	専門家も警鐘 南海トラフ巨大地震 “前兆”続々発生の不気味	日刊ゲンダイ	2019年2月15日
64	高橋学	専門家に聞いた 北海道地震 M5.8 でも「震度6弱」の理由	日刊ゲンダイ	2019年2月24日
65	矢野健一	考古&現代美術のコラボ 杉沢遺跡を「地上と地中で再現, 紹介記事掲載	滋賀夕刊	2019年2月27日
66	高橋学	東北沖 M7“90%”と南海トラフ M8 ~9“80%” どちらが危ない?	日刊ゲンダイ	2019年2月28日
67	矢野健一	企画展示「春休みの遺跡—米原市杉沢遺跡の[考古×美術]プロジェクト」の紹介記事掲載	中日新聞滋賀総合版	2019年3月2日
68	高橋学	新燃岳噴火は前兆か、2019年“大地震の可能性”を専門家指摘	日刊ゲンダイ	2019年3月3日
69	高橋学	M8地震で銀座が水没!? いつ起きてもおかしくない「巨大海溝型地震」 専門家が警鐘	夕刊フジ	2019年3月11日
70	高橋学	北海道「二度の大地震」で放置された爪痕	週刊フラッシュ	2019年3月12日
71	高橋学	東京を直撃する「M9地震」と「巨大津波」の危険度が分かった	週刊フライデー	2019年3月15日
(講演会)				
1	小川さやか	その日暮らしの生き方と働き方	千葉県生産性本部主催「トップマネジメントクラブ」4月例会, 千葉県千葉市・京成ホテルミラマーレ,	2018年4月18日
2	小川さやか	コメント, 松村圭一郎「アフリカの分配のモラルティを語ると言うこと」	『京都人類学研究会』4月例会, 京都市・京都大学	2018年4月27日
3	小川さやか	タンザニアにおけるオルタナティブ	56設計社主催『誰のものでもある場所の現在—	2018年4月29日

		な路上空間の創出	アフリカ、ジャカルタ、京都から考える,出町柳文化センター・京都市	
4	矢野健一	水中ロボットを利用した葛籠尾崎湖底遺跡の調査	立命館大学考古学・文化遺産専攻ランチタイムトーク, 立命館大学・京都市	2018年5月8日
5	Corey Noxon	アメリカ考古学と日本考古学の違いとは?	, 立命館大学考古学・文化遺産専攻ランチタイムトーク, 立命館大学・京都市	2018年5月22日
6	中村大	あなたの研究を見える化してみませんか	立命館大学考古学・文化遺産専攻ランチタイムトーク, 立命館大学・京都市	2018年6月19日
7	矢野健一	ロボットで調査する水深70mの琵琶湖底遺跡	平成30年度第2回一般教養講座, 下関市立考古博物館・下関市	2018年7月14日
8	那須浩郎	Mixed agricultural systems in the Middle Yangtze and the beginning of rice and millet agriculture in Japan	Current Frontiers in the Archaeobotany of Rice Workshop, Peking University School of Archaeology and Museology, Beijing, China,	2018年8月3日-6日
9	小川さやか	その日暮らしの人類学—不確実な世界を生き抜く知恵と共同性	東進ゼミナール主催「大学学部研究会」, TKPガーデン品川, 東京都港区	2018年8月10日
10	小川さやか	香港に乗り出したタンザニア人によるシェアリング経済	京都精華大学主催「連続講座 現代アフリカのパワーと可能性を知る〜ビジネスの視点から〜」, 新丸の内ビル・東京都千代田区	2018年8月10日
11	矢野健一	滋賀県米原市杉沢遺跡における調査成果	米原市歴史講座, 伊吹山文化資料館・米原市	2018年8月22日
12	那須浩郎	Millet domestication and dispersal in east Asia. Ukraine as the crossroad for Agricultural dispersal in Eurasia	International Workshop 2018, Borys Grinchenko Kyiv University, Ukraine,	2018年8月31日
13	小川さやか	The logic of "Open reciprocity": Case study on the Sharing Economy and "Platform-liked civil society" among Tanzanians in Hong Kong	Yonsei University, Seoul, Korea,	2018年9月17日
14	小川さやか	When the auto-ethnography of the anthropologist intersect with the auto-ethnography of the investigator : A case study of SNS practices of Tanzanians in Hong Kong	Seoul National University, Seoul, Korea,	2018年9月18日
15	上峯篤史	石器時代の舞鶴	郷土史講座, 舞鶴西公民館・京都府舞鶴市	2018年10月5日
16	中川毅	環境考古学と地質学のコラボレーション —今と似ていない時代—	若狭町歴史環境講座, 若狭三方縄文博物館・福井県三方上中郡	2018年10月7日
17	石田智恵	解説	「アルゼンチン・正義を求める闘いとその記録性暴力を人道に対する犯罪として裁く!」, 上智大学・東京都千代田区	2018年10月13日
18	中川毅	水月湖年縞研究の最前線	汽水域研究会招待講演, 福井県立三方青年の家・福井県三方上中郡	2018年10月21日
19	小川さやか	信頼とざる賢さ—タンザニアにおけ	平成30年度滋賀県更生保護事業関係者顕彰式	2018年10月24日

		る異質な他者とともに生きる技法	典, ピアザ淡海・大津市	
20	森勇一	多度山をめぐる地質と地震	桑名市民大学講座, 桑名メディアライブ・桑名市	2018年10月25日
21	中川毅	暴れる気候と暴れない気候 ～人類は予測不能な時代をどう生き延びたか～	平成30年度県立広島大学学術講演会, 県立広島大学・庄原市	2018年10月26日
22	森勇一	アンモナイトの約束ー名古屋の自然3つのジオストーリー	名古屋市高年大学環境コース講演, 鯉城学園・名古屋市	2018年10月31日
23	中川毅	7万枚の縞を数えるー福井県の「泥」が世界の「ものさし」になるまでー	平成30年度計量記念日全国大会, ホテルインターコンチネンタル東京ベイ・東京都	2018年11月1日
24	那須浩郎	種子ビーズの起源	世界のビーズ講座特別版, 岡山市立オリエント美術館・岡山市	2018年11月4日
25	中川毅	年縞研究の四半世紀ー7万枚の地層と戦った研究者たちー	東海北陸地区青少年教育施設協議会運営研究大会, 福井県立三方青年の家・福井県三方上中郡	2018年11月8日
26	森勇一	ンモナイトの約束ー「愛知の自然」3つのジオストーリー	東海シニア自然大学, 東海自然学園・名古屋市	2018年11月9日, 16日
27	小川さやか	未来の人類社会のあり方ータンザニア商人の生き方に学ぶ	世界思想社教学社創業70周年記念パーティ, 京都ホテルオークラ・京都市	2018年11月10日
28	矢野健一	縄文時代の交流	第139回埋蔵文化財セミナー「京都・縄文最前線ーつたわる、ひろがる縄文文化ー」, 京都テルサ・京都市	2018年11月10日
29	上峯篤史	日本列島の前・中期旧石器遺跡にかかわる最近の発掘調査と研究法	千里文明史学協会 千里文明史学協会例会, 伊丹空港ビル・伊丹市	2018年11月16日
30	高山浩司	南硫黄島の植物 再発見! シマクモキリソウ	南硫黄島講演会, 「一度だけではわからなかった。再び行くことでわかった原生自然10年の変化の話」, 小笠原ビジターセンター・東京都	2018年11月24日
31	中川毅	私たちはどんな地球で暮らしたいのかー古気候学が語る『今と似ていない時代』	関西プレスクラブ定例会, インターコンチネンタルホテル大阪・大阪市	2018年11月28日
32	矢野健一	縄文入門	朝日カルチャーセンター芦屋教室, 兵庫県芦屋市	2018年11月29日
33	小川さやか	楽しい反緊縮ー借金返さナイト	立命館大学先端総合学術研究科公式イベント, マテリアル京都・京都市	2018年11月30日
34	矢野健一&高橋学	環境史・土地開発史・災害史からみた災害リスクへの対応	立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 研究拠点成果報告シンポジウム, 「21世紀日本の強靱で安全・安心な社会を築く新たな研究ー子育て支援、公正な司法、災害予防への貢献ー」, 立命館大学大阪いばらきキャンパス, 茨木市	2018年11月30日
35	中川毅	「現代は」はいつまで続くのかー地質学から見た気候変動の未来ー	日本経済研究所, 東京都	2018年12月4日
36	小川さやか	研究するための狡知ーフィールドワークから論文文化まで	「フィールドワーカーのための課題解決のフレームワーク」, 関西学院大学・神戸市	2018年12月8日
37	幡中光輔	京田遺跡から出雲の縄文世界をさぐ	出雲南ロータリークラブ 通常例会, 出雲ロイ	2018年12月14日

		る	ヤルホテル・島根県出雲市	
38	高山浩司	小笠原諸島南硫黄島の植物相とシマクモキリソウの再発見	日本植物分類学会講演会, 大阪学院大学・吹田市	2018年12月15日
39	中村大	増えすぎた人口が環状列石を生んだ?	伊勢堂岱縄文館講座, 第2回遺跡を研究する, 伊勢堂岱縄文館・秋田県北秋田市	2019年12月15日
40	那須浩郎	遺跡の植物種子から何がわかるか?	愛媛県埋蔵文化財センター調査員研修, 愛媛県埋蔵文化財センター・松山市	2018年12月27日
41	石田智恵	スタディートーク #1	ファン・デ・ナゴヤ美術展 2018, 『NARRATIVISUAL: M』 M氏の告白: 矛盾を純粋培養するアイデンティティの病, 名古屋市民ギャラリー矢田・名古屋市	2019年1月12日
42	小川さやか	Sharing Economy and Platform-civil society among Tanzanians in Hong Kong	「経済発展研究会」, 一橋大学経済研究所・国立市	2019年1月15日
43	中村豊	三谷遺跡の研究	徳島市立考古資料館 平成30年度考古学入門講座, 徳島市立考古資料館・徳島県徳島市	2019年1月26日
44	遠部慎	考古学と自然科学	船橋市飛ノ台史跡公園博物館 平成30年度考古学講座, 船橋市飛ノ台史跡公園博物館・千葉県船橋市	2019年1月26日
45	高橋学	災害発生のメカニズムー大阪府北部地震・西日本豪雨・北海道胆振東部地震ー	岡山市市民講座, 岡山県立図書館・岡山市	2019年1月26日
46	森勇一	ムシの考古学	オムニバス授業「地球環境史学」, ふじのくに地球環境史ミュージアム・静岡市	2019年1月27日
47	小川さやか	『対話的教養』ー分野横断を超えた知的基盤とは何か	立命館大学先端総合学術研究科パートナーシップ委員会, 立命館大学・京都市	2019年1月27日
48	小川さやか	ずる賢いのは悪い事?ー文化人類学と芸術から学ぶ不確実な世界でのサヴァイバル	金沢21世紀美術館アートスクール「魔法のコスチューム」特別企画こたつ座談会, 金沢21世紀美術館・金沢市	2019年1月6日
49	北川淳子	奇跡の湖「水月湖」年縞について	おおい町歴史館, 福井県・大飯郡	2019年2月2日
50	北川淳子	奇跡の湖水月湖年縞	若狭ロータリークラブ例会, 小浜商工会議所・小浜市	2019年2月5日
51	北川淳子	水月湖年縞堆積物発見と古気候解析への貢献	日本気象予報士会北陸支部第74回例会, コワーキングスペースサンカク・福井市	2019年2月16日
52	高橋学	災害と避難ー小牧市とその周辺ー	小牧市社会福祉協議会, 小牧市ふれあいセンター・小牧市	2019年2月18日
53	中川毅	7万枚の地層を数えるー泥から最高精度の時計を作った研究者たちー	東京学芸大学附属高等学校特別講義, 東京学芸大学附属高等学校・東京都	2019年2月22日
54	富田敬大	トーク モンゴルの歴史と文化	「知られざるモンゴル映画特集」, 神戸映画資料館・神戸市	2018年2月23日
55	矢野健一	杉沢遺跡の発掘調査成果	企画展「春休みの遺跡ー米原市杉沢遺跡の[考古×美術]プロジェクト」公開講座, 伊吹山文化資料館・滋賀県米原市	2019年3月3日
56	高橋学	スーパー南海地震その発生前後ー名古屋市を中心にー	名古屋市民講座, 楽運寺・名古屋市	2019年3月10日

57	山田和芳	島嶼の環境と文明：年縞環境史の視点から	第3回 ふじのくに地球環境史ミュージアム・静岡県富士山世界遺産センター 合同国際シンポジウム、ふじのくに地球環境史ミュージアム・静岡市	2019年3月16日
58	高山浩司	海洋島は生物多様性のゆりかごか？	同上	2019年3月16日
59	矢野健一	“縄文”の謎をとく	NHKカルチャーセンター梅田教室, NHKカルチャーセンター梅田教室・大阪市北区	2019年3月16日
60	那須浩郎	Why Jomon people did not become farmers by themselves?: Origin of agriculture in the Japanese Archipelago.	The Future of the Earth: Insights from island civilizations, The 3rd International Symposium in Shizuoka Prefecture, 静岡県コンベンションアーツセンター・静岡市	2019年3月17日
61	北川淳子	奇跡の湖 水月湖の「年縞」	福井県ろうあ協会女性部定期総会, 福井県社会福祉センター・福井市	2019年3月31日
(その他)				
1	矢野健一 &川村貞夫 &島田伸敬	Robotic Archaeological Survey of Tsuzuraozaki Underwater Site in the Lake Biwa, Japana	『Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology』, The Society for East Asian Archaeology, 98p.	2018年6月12日
2	中村大	Rituals, Burials and Population Dynamics of the Late and Final Jomon Period in Japan	『Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology』, The Society for East Asian Archaeology, 99p.	2018年6月12日
3	小川さやか	香港の地下経済でみた最先端のエコノミーシステム	「RADIANT」, 立命館大学研究部, 9号, pp.10-11	2018年8月
4	中村大	展示出品「記憶の器 土器片」	展覧会『再生可能メモリーズ』, オフグリッド・福島県福島市	2018年10月5日,6日
5	矢野健一	文学部キャリア企画：映画「縄文にハマる人々」上映会と座談会を企画・実施	立命館大学衣笠キャンパス・京都市北区	2018年11月17日
6	矢野健一	企画展 春休みの遺跡－米原市杉沢遺跡の「考古×美術」プロジェクトを企画・制作	伊吹山文化資料館・滋賀県米原市	2019年2月26日～2019年3月3日
7	中村大	遺跡解説板の英訳（愛宕山遺跡、小田原遺跡、谷津山神遺跡）	小田原市教育委員会・小田原市	2019年3月11日
8	富田敬大	若手研究者インタビュー #04 モンゴルに学ぶ、人と自然のかかわり方	「私立大学ブランディング事業 高校生向け広報誌」, 大学立命館グローバル・イノベーション研究機構, Vol.2, pp. 17～18	2019年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	森勇一	日本第四紀学会	日本第四紀学会学術賞	昆虫化石に基づく古環境と生態活動の復元に関する研究	2018年8月
2	島田伸敬	The 14th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2018).九州大学西新プラザ・福岡市早良区	MPR2018 best poster presentation award	Rain Streaks Detection and Removal Using Temporal Correlation and EM-Based Low-Rank Matrix Completion for Video	2018年10月

				Sequences	
3	山田和芳	社会地質学会	第28回環境地質シンポジウム講演賞、日本大学・東京都	年縞にみる環境史学の現状と課題	2018年12月
4	島田伸敬	The 25th International Workshop on Frontiers of Computer Vision (IW-FCV2019), Lakai Sandpine Resort, Gangnueng	IW-FCV2019 Best Paper Award	Auto-encoder factorizing into transform invariants and transform parameters	2019年2月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	丸山敦	アフリカの二つの古代湖におけるシクリッド科魚類の摂食戦略の多様化と多種共存機構	科学研究費補助金[国際共同研究強化 B] (日本学術振興会)	2018年10月	2020年3月	代表
2	石田智恵	ラテンアメリカにおける政治的カストロフ後の日常的位相	科学研究費補助金 [基盤研究 B (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2022年3月	代表
3	神松幸弘	陸上生態系における小型サンショウウオ類の生態的地位	科学研究費補助金 [基盤研究 C (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2020年3月	代表
4	小川さやか	アフリカ遊動社会における接合型レジリアンス探求による人道支援・開発ギャップの克服	科学研究費補助金 [基盤研究 A(一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2023年3月	分担
5	中川毅	セルゾーターによる化石花粉抽出技術を用いた、放射性炭素年代較正モデルの高精度化	科学研究費補助金 [基盤研究 A(一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2022年3月	代表
6	島田伸敬	指使いの視触覚統合プロセスモデリングに基づく硬軟物操りの創発型制御	科学研究費補助金 [基盤研究 B (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2021年3月	代表
7	小野映介	地形発達過程を考慮した自然災害発生リスクの評価	科学研究費補助金 [基盤研究 B (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2021年4月	代表
8	川村貞夫	インフレータブル構造ロボットシステムの設計論構築	科学研究費補助金 [基盤研究 A (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2021年3月	代表
9	小野林太郎	オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究	科学研究費補助金[国際共同研究強化 B] (日本学術振興会)	2018年4月	2022年3月	代表
10	藤木利之	東ポリネシアにおける人類到達時期とその後の植生改変	科学研究費補助金 [基盤研究 B (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2021年3月	代表
11	高山浩司	コバイモ類の種分化:花形態と系統の不一致の要因・独特な分布パターンの成因を探る	科学研究費補助金 [基盤研究 C (一般)] (日本学術振興会)	2018年4月	2022年3月	分担
12	中村豊	縄文/弥生移行期における集落・地域社会の変化に関する研究	科学研究費補助金 [基盤研究 C (一般)] (日本学術振興会)	2017年4月	2020年3月	代表
13	那須浩郎	縄文時代の植物大型化のメカニズム解明	科学研究費補助金 [基盤研究 B (一般)] (日本学術振興会)	2017年4月	2020年3月	代表
14	上峯篤史	日本列島における前・中期旧石器文化の存否と後期旧石器文化の成立過程	科学研究費補助金 [若手研究 A(一般)] (日本学術振興会)	2017年4月	2020年3月	代表
15	菅原大助	海岸地形発達史に基づく巨大地震イベントの解読	科学研究費補助金 [基盤研究 B (一般)] (日本学術振興会)	2017年4月	2021年3月	代表
16	河角直美	歴史 GIS によるデジタル・ヒューマニティーズの展開	科学研究費補助金 [基盤研究 A (一般)] (日本学術振興会)	2016年4月	2020年3月	分担
17	小川さやか	アジア-アフリカ諸国間の模造品交易に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	科学研究費補助金 [若手研究 A(一般)] (日本学術振興会)	2016年4月	2020年3月	代表
18	小川さやか	平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築	科学研究費補助金 [挑戦的萌芽] (日本学術振興会)	2016年4月	2019年3月	分担

19	上峯篤史	新しい石材原産地遺跡研究法にもとづく西日本先史社会の複雑化プロセスの解明	科学研究費補助金 [挑戦的萌芽] (日本学術振興会)	2016年4月	2019年3月	代表
20	中村大	北日本の縄文時代墓制における地域的特徴の解明とその社会的・象徴的意味の再検討	科学研究費補助金 [基盤研究 C (一般)] (日本学術振興会)	2016年4月	2018年3月	代表
21	福本侑	湖沼堆積物の高精度分析による完新世の気候変動復元	科学研究費補助金 [若手研究 B(一般)] (日本学術振興会)	2016年4月	2018年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	富田敬大	20世紀モンゴルの社会経済変動が人間=環境関係に与えた影響に関する研究	高梨学術奨励基金 [若手研究助成]	2018年4月	2019年3月	代表
2	神松幸弘	古代甘味料の復元	国文学研究資料館(共同研究)	2018年4月	2019年3月	分担

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
N/A								